

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873100154
法人名	有限会社 弘祐会
事業所名	グループホームこうゆう庵
所在地	愛媛県西条市丹原町寺尾甲31番地9
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由に地域の中で…」を理念に挙げてるように施設と地域との交流を大切に力を入れている。毎年実施している「夕涼み会」は、はや10年がたち定着し、200名以上の来客がきて参加してくださっており、婦人会のボランティアのお手伝いもしていただき、毎年、施行を凝らし地域の方々とすてきな交流の場になるようにしている。地域の公民館だよりには、婦人会の活動行事として掲載もしてくださっている。また秋の「地方祭」には近隣、隣地区(ご利用者様のご家族)の地域のお神輿やだんじりが時間帯を合わせて集結し訪問にきてくださいます。ご利用者様と一緒に、日頃の感謝を表す場となっております。春の地域の運動会は地域の区長よりテントを立てる場所を提供していただき、ご利用者様の体調を伺いながら参加させていただいて入ります。文化祭には、ご利用者様の1年間の作品作りの発表が出来る場を提供して下さり、地域とつながりながら暮らしていけるよう交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道沿いに北欧風の建物が人を招き入れるように事業所は立っており、入口から中庭に入ると左右に玄関がある。吹抜けのあるゆったりとした共用スペースを中心に各居室があり、高い位置にある窓から自然光が建物の隅々まで行き届いている。ケアも住環境と同様に、利用者が生活をゆっくり楽しむことを大切にしている。管理者が「新しい」という文字にこだわって考えた「新しい我が家」という基本理念は、利用者の「新しい」生活がここで始まり、家族等の協力が重要であることと、「新しい」生活基盤であることを考え作成している。高齢期に「新しい我が家」が始まるポジティブな思考を持つことは、利用者の生活に張りを持たせる良い取組みと言える。管理者は継続は力なりと考え10年前から事業所を運営しており、その間に試練も多くあったようであるが、高齢期にも前向きにという事業所の取組みは、利用者に明るい生活の場を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームこうゆう庵

(ユニット名) ユニットⅠ

記入者(管理者)

氏 名 天崎るみ

評価完了日 平成 25 年 11 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「自由に地域の中で」を理念に揚げ、地域の方と接する機会を大切にし、ことあるごとにカンファレンスを行い話し合いの場を持ち、理念の意義を意識するように心がけ、話し合いを行い、提供できるよう都度確認し、同じ方向にむけられるよう、共有（和）を計れるよう、日々実践につなげていくよう心掛け努めている。 (外部評価) 「新しい我が家」から始まる基本理念は、事業所での生活は家族等と切り離して考えるのではなく、利用者の新しい生活を家族等と共に職員がサポートして行くという思いを込めて作成している。管理者は職員に絶えず「家族と共に」という言葉を投げかけながら、利用者同士や家族、職員が一緒となって新しい我が家づくりに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の一員として、地域の行事や小中学校の運動会（施設専用でテントを建てる場所を設けていただいている）お祭り、文化祭（ご利用者の作品展示）盆踊り大会、児童生徒を守り育てる会、震災訓練など、地域行事に積極的に参加し、施設での行事にもご利用者の生活に組み入れ、交流に努めている。 (外部評価) 開設して10年が経過し、積極的に地域の行事や防災訓練などに参加したり、夕涼み会などの事業所の行事にも多くの地域住民に参加してもらいながら、地域に事業所の居場所を創り上げている。管理者は事業所に隣接した建物に居住して、利用者と一緒に「ここに住んでいる」ことを近隣住民に周知し、地域に溶け込みながら積極的に交流を持つよう取り組んできたことも大きい。自然な形で地域交流には、長い年月が感じられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人々との交流の中で、施設での役割、認知症の方の施設という認識を伝えていくと共に、施設の利用開放などを行っている。地域の清掃活動にもご利用者と参加している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に、運営推進会議を開催し、その都度テーマを設定 し、利用者のご家族、地域の区長、民生児童委員、消防 団、婦人会、公民館長、主事、近隣住民のメンバーと話し 合いをしている。行事の計画、反省会なども行い、避難訓 練、救急法などにも参加していただいたりと、地域の協力 体制の確立にもなっている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、区長、婦人会長、民生委 員、住職、地域包括支援センター職員等の多くの参加を得 て開催している。会議では、事業所の報告などを行い参加 者と意見交換をするほか、講話や誕生日会などを一緒に開 催する工夫をしている。管理者は常にテーマの中心を利用 者と考え、参加者に利用者の理解を深めてもらおうと共に、 参加しやすいよう取り組んでいる。会議は、事業所や参加 者に有意義な時間となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) ご利用者や家族に関わる問題などを中心に、市町村担当 者に相談し、助言を頂いたり、面談などにも立ち会ってい ただくなど協力関係を築くように取り組んでいる。また、月 に一度、介護相談員の方が来られ、ご利用者の状態をお伝 えしたり、またアドバイスを頂いたりしている。	
			(外部評価) 市内にあるグループホームの数は、市担当者が運営内容ま で把握できる理想的な数である。市担当者は運営推進会議 に参加しており、運営のキャリアと実績からも良い協力関 係を築いている。また、デイサービスセンターや居宅支援 事業所等、高齢者福祉事業など地域の福祉拠点としての信 頼も厚く、行政だけでなく福祉関係機関とも堅固な連携を 図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する禁止事項などを具体的に挙げることに より、ミーティングなどで事例を通して情報を共有し、夜間 の玄関の施錠についても取り決めを行ない、統一した対応 に努めている。	
			(外部評価) 「帰宅願望の出た利用者には職員が付き合うんです」と苦 笑している管理者は、身体拘束は絶対にしたくないという 決意を持って支援している。この確固たる信念は利用者 にも浸透しており、安心している利用者の笑顔からも伺うこ とができる。職員は、ミーティングで利用者一人ひとりの 心の調子を確認し合い、徹底して見守るケアを実践してい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所はもちろん、ご利用者についての虐待が見過ごされることがないように言葉遣いにも配慮し、ご利用者の気持ちを尊重し心のケアにも努め虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 具体的な勉強会などは実施できていないがパンフレットなどを用意し、ご利用者やご家族から相談があったり、要望があった場合は専門機関につなげられるような体制をとっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者の事前面接から説明をはじめ、入所時には管理者・計画作成担当者・担当ケアマネージャー・ユニットリーダーから直接契約について説明し、疑問点などを再度お聞きするなどし、契約に署名捺印をいただいている。契約後も面会時などにお声掛けさせていただくなどの配慮も行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時などにご家族にご意見をお聞きし必要な場合は、会議ミーティングなどで介護職員にも報告し、情報の共有に努めている。ご利用者に関しては、介護計画作成時にご要望をお聞きし介護計画に反映させている。	
			(外部評価) 家族等と一緒に利用者の生活を支えるケアを実践するため、職員は家族等に面会時に積極的に話しかけ、利用者の近況を報告するなど、密にコミュニケーションを図るよう努めている。職員は家族が話しやすいよう話題づくりに工夫し、要望や意見、時折愚痴等を聞くようにしている。出された意見は事業所として真摯に受け止め、必要に応じて会議等で報告し、職員間で共有している。また、利用者から出されて意見は介護計画等に反映して支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は諸会議・申し送りにも参加しており、毎日の日誌にも目を通し、日々の出来事を把握している。また、日常的に職員に声かけしていただき話す機会を作り、意見を聞く機会を持っている。職員一人ひとりのコミュニケーションを大切にし職員の介護の質を高めるよう努めている。 (外部評価) 管理者は日々の申し送り等に参加しているため、職員は意見を伝えやすい環境にある。管理室が各ユニットの上の階にあり、管理者は1日数回利用者の状態を確認し、職員が気づきにくい利用者の変化にも対応している。事業所では管理者と職員の視点で利用者の体調などを確認するようにしており、日頃から報告や連絡、相談など忌憚なく話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者は職員の個々の生活状況を理解し、生活状況をふまえ、労働時間 給与など、各自が続けて働ける環境、条件、整備等ご利用者の生活に支障がないよう多方面に配慮している。また、資格取得には全面協力しており、取得の際には給与についても配慮していただいている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者は職員一人ひとりのケアの実力と力量を把握し、個人の資格取得状況も合わせながら研修案内、研修情報の回覧・表示し研修の調整を図っている。希望があれば自由に申し出て研修を受けられる環境を提供している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 居宅事業所のケアマネージャーを中心に視察・見学等を行ない又、研修などで同業者との関わりを積極的に持つことで新たなネットワーク作りや勉強会・研修会の情報交換などを行いネットワークづくりなどを行なっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用者には必ず面接を行ない、本人の希望や不安な点をお聞きし説明を丁寧に行うよう心がけている。日々の生活で些細な点も記録に残し、サービス利用後のケアに役立てている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前に必ず面接を行ない、ご家族の希望や不安な事をお聞きして、丁寧に説明を行うように心掛けている。面会に来ていただいた時にも、管理者よりお声をかけさせていただき、定期的にご家族の希望や、ご意見をお聞きしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込み段階で情報収集を密に行ない、担当のケアマネジャーとも情報交換をすることで、ご本人・ご家族だけではなくいろいろなサービス全体からご利用についても検討をしている。医療機関の協力も必要な場合もあり、診断書や紹介状の手配など、助言させていただいている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の日常生活を送る中で家事活動を中心に、食事時の挨拶・家事のお手伝い・掃除・畑への季節の野菜の収穫・草取りなど、役割分担し、知恵を出していただいたり、季節の行事などを教えていただいたりと、それぞれ役割を持っていたくことで、職員との一方的な関係ではなく、「和を共有する同士」の関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に病院受診、外出、行事参加などの協力を、ご家族にお願いし、施設に全てを依存せず、施設とご家族が協力して、ご利用者にとって一番良い環境作りを心がけ、ご利用者とご家族との関係を断ち切らないよう配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 在宅生活の延長で、地元の馴染みの人との交流、敬老会・文化祭・運動会・地方祭などの行事への参加、行きつけの美容院へ行かれるなど、遠方からの面会者などには一緒に食事をしていただいたり、遠方から帰られたご家族と一緒に外泊をされたりと、馴染みの関係が途切れないよう支援している。 (外部評価) 住み慣れた自宅周辺での馴染みの関係を大切にして、敬老会など地元の行事に参加したり、馴染みの美容院へ出かけられるよう支援している。長期の利用者も多く、利用者同士や職員、近隣住民と新たな馴染みの関係ができています。また、知人や友人の訪問など、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が仲介となり、交流の機会を設け、いろいろな会話の中から、子供の頃の話や終戦時など井戸端会議のような形式を取り、会話は楽しいものだと言った皆様が感じ、「共に暮す」暮らしを意識しながら自然に関わり、協力しあえるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスの利用が終了しても、行事などのパンフレットを送付してお誘いしたり、関係機関の担当ケアマネージャーを通じ、情報をお聞きするなど経過の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の個人介護記録には、その日、ご本人が発言した言葉をそのまま記入し、それに対し職員がどう返答し、どう納得されたのかなど、何気ない日常会話の中に心の変化や、体の変化をつかむ材料としている。 (外部評価) 利用者理解をケアの重要ポイントとして位置付け、利用者一人ひとりの生活歴を整理している。利用者が「わがまま言い始めてくれると安心した証拠」と、ドンと構えている職員は、丁寧な利用者の思いや意向の聞き取りが期待できる。わがままの中に利用者の思いや意向を聞き取ろうとしている姿勢は、利用者本位のサービスが提供できていると証拠である。新たに知り得た内容は記録して、職員間で共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面接や入所後のアセスメントを行ない、ご本人や、ご家族の面談や日常会話での情報収集、ご家族にはアンケート用紙を渡しアセスメント用紙をまとめ、サービス利用に活用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日課表や個人記録を詳しく記入することにより、毎日の現状を把握できるように努めている。口頭で申し送りを行ない、日誌の申し送り欄に特記している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご利用者の状態の変化や職員が気づいた点など毎月、月初めに各ユニットでケアカンファレンスを行ない、話し合う場を設けている。ご家族には面会時にご意見をいただいたり、必要時には面談などを行っている。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、利用者の状態の変化や気づいたことを職員間で話し合い、介護計画を作成している。モニタリングは、3年ぐらい前に行政指導で様式に評価を加える見直しを行った。評価をして次の介護計画の作成に活かすことで、より具体的なアセスメントにつながっている。分かりやすく利用者に合わせた介護計画になっており、職員の専門性の向上にもつながっている。	モニタリングの評価の様式をもっと具体的に作る時期に来ていると思われ、「できている、できていない」だけではなく、「なぜ、できていないのか」という分析や「他のやり方」という手法の変更など、言葉で明記することを期待したい。また、明文化することは問題を明確にし、新たな利用者像の発見や気づきにもつながる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一日ご利用者がされたことをただ単に記録するのではなく、ご利用者の言葉・会話なども含めながら「気づき」を記録するように心掛けている。出勤以外の記録にも必ず目を通すことで情報を共有し、その都度話し合いよりよい介護につなげる努力をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 新しい情報を取り入れながら、柔軟な支援やサービスの多機能化「受診介助、買い物、外出等」に取り組み、その時々生まれるニーズに対応できるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 大きな行事(夕涼み会・避難訓練・地域の祭り、地域の文化祭、など)に地域の方々に協力をしていただき、グループホームを知らない方にも理解していただく機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医と連携しご本人やご家族の希望を取り入れ、 受診時にはご家族にも協力をお願いし、ご本人がよりよい 医療を継続して受けられるよう支援している。必要時には 施設からの情報提供や薬の受け取り、受診協力も柔軟に対 応している。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て受診 することができる。管理者は、利用者の見守りを徹底する には職員の受診介助が良いと考えているが、家族と一緒に ケアを行うことを基本としているため、効率より家族との 絆を大切にしている。また、各ユニット毎に看護師が配属 され、利用者の健康管理や医療的な見守りも専門的に行っ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員から日々の気づきや申し送りにて看護師への相談 もあり。医療機関へつなげるきっかけとなっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご利用者が入院の際には病院関係者にご利用者の状態や、 ご家族の状態を伝え、情報提供書をお渡ししている。日々 の受診の際にも病院関係者との情報交換なども行ないス ムズな関係作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご利用者の状況を見ながら、重度化した場合などの対応に ついてご家族と相談できる体制を作っている。ご本人やご 家族の希望を中心に施設でのケアの限界と医療体制など十 分に説明し、職員も方針を共有しながら思いをひとつに し、チームとして安心してとり組めるよう話し合い支援が 出来るようにしている。 (外部評価) 「口から食事（栄養）が摂れる間はお世話をさせてもら う」と事業所の役割を規定し、利用者や家族に説明して支 援している。対応できる範囲を明確にすることは、事業所 の専門性の高さが伺える。看取り支援の経験があるため、 その経緯を確認すると、「当日まで口から食事を摂ってい た」と言われることから、福祉職の職業倫理を高く持って いる事業所であることが分かる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを整備し、消防署の指導のもと、地域の方を交え、勉強会などを行ない日々訓練している。今後も専門的な講習を受けるなどして実践力を身につけていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回6月・11月に日勤、夜勤帯想定で防火訓練も実施している。地域の区長（自主防災組織のメンバー）民生委員・婦人会・消防団の方々、近隣住民にも参加していただき地域との協力体制を確認している。運営推進会議などでも地域の防災マップなどをいただき、課題にあげて話し合っている。 (外部評価) 避難訓練などの災害対策は回数を重ねており、地域住民との連携もしっかり取れている。事業所は平屋で、避難経路は複数あるが、火災等の人災は起こすべきではないとの思いから、訓練の度に避難経路を変えるなど、職員の防災意識の高さが伺える。つついルーチン化しがちな訓練であるが、職員が利用者の命を守ることの使命を再認識する機会としており、真摯に取り組んでいることが分かる。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないよう「言葉遣い」に気をつけ、コミュニケーションをとっている。プライバシーに関しても、ことあるごとに検討している。 (外部評価) 職員は、各々の年齢から利用者との関係性を推察し、子どもや孫、友人など、その位置にあった会話をしている。職員は利用者の地元のイントネーションで声かけをしており、利用者には安心感がある。声かけを積極的に行う必要のある利用者や、職員が聞き役に徹して傾聴した方が良い利用者など、利用者一人ひとりの状態に配慮した関わりができており、心地よく感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者に事前に声をかけ、ご希望をお聞きしたり、体調面に配慮したり、手芸時の布選びの際には、職員が決めずにご利用者の意思で選んでいただき、自己決定を尊重している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調や生活リズムを大切にしながら、ご利用者のペースに合わせて声かけし、何かしたいことがあれば取り入れ、自己決定が難しいご利用者の場合は職員が提案するなどし、日々ゆったり過ごせるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院・理髪店があるご利用者には、一人ひとりに合わせた美容院を利用できるように、美容液等持参しているご利用者には、職員が付き添い利用していただき、その人その人に応じた身だしなみやおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者の能力に合わせ、負担にならないよう配慮しながら、野菜の下準備や片付け、台拭きなど、職員と一緒に会話をしながら手伝っていただいている。また、好みを聞き、献立を一緒に考え、会話も楽しみながら食事をしている。 (外部評価) 近隣住民が「みんなで食べて」と食材を持ってきてくれている。管理者は、近隣住民に「いつも良くしてもらっています」と言われ、毎日のようにお裾分けが食卓に並び、食事に彩りを添えている。調理した職員に利用者が「おいしい」と声をかけている食事の様子は、利用者が「我が家」の食卓を囲み食事をしているように感じる。また、利用者は職員と一緒に台拭きなどできることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は一日を通じてバランスよく取れているか食事摂取量、水分摂取量は必ず記録に残し、水分量は午前・午後・食事中・入浴後など、できるだけ多く摂取できるよう配慮している。また、毎月体重測定を行ない、病気予防に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 職員が見守りながら、毎食後口腔ケアをフロアーの洗面所にて実施している。きれいに磨けているかどうか、声かけ、見守りながら清潔を保っている。夜間は義歯をポリデントにつけ洗浄している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄は個人個人の精神面を配慮し、いつもトイレでの排泄を心がけて援助している。また尿意、便意がわからないご利用者については、個人個人の排泄パターンごとに声がけさせていただき、誘導させていただいている。失敗した時は、自尊心を傷つけないよう声かけや対応を心がけ支援している。 (外部評価) 職員は、利用者がトイレで排泄できるよう心がけて支援している。利用者の身体状態に合わせて、一人ひとりの排泄パターンに配慮した声かけをし、トイレへの誘導等をしている。各トイレの手すりは、少しずつ取り付け位置が異なり、利用者に配慮してトイレを使用しやすい位置に取り付けられ使い分けている。開設後10年が経過しているが、トイレには生活臭もなく爽やかな空間となっている。トイレの綺麗さは、介護の良さと比例している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事（野菜類）や水分を十分に摂取していただけるよう心がけている。体操や歩行訓練等も行っている。排便の確認がとりにくい面があり、時間的に長い場合はご本人にその都度確認している。ご本人の申告もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴している。ご利用者に相談しながら行事や病院受診などで入浴時間に変更になる場合もあるが、お一人お一人がゆったり気持ちよく入浴できるよう配慮している。ご本人の希望などもお聞きしている。入浴剤を入れるなどして、入浴を楽しんでいただいている。 (外部評価) 管理者は、利用者のどんな身体状態でもできる限り湯船に浸かってほしいと考えて支援しており、職員が2人体制でも介助がしやすい浴室となっている。利用者は毎日入浴をすることができ、ゆっくりと気持ち良く入浴できるよう支援している。入浴時は職員と利用者が1対1となり、利用者理解の時間と位置付け、利用者は楽しい時間を過ごしている。今後は、利用者が安心安全に入浴できるようリフトの導入も考えており、入浴支援には余念がない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や習慣などご利用者のリズムに合わせ、各自自由に休める環境作りに努力している。ご利用者の中にも早く入眠される方もおり、体調に合わせて居室に誘導し、休息を促せるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 病院からの処方箋はファイリングし、個人カルテには誰が見てもわかる様に細かく記入している。薬の変化がある時は、申し送りですべて確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴、能力に応じて負担にならないよう家事などの役割を担ってもらっている。テレビ、音楽鑑賞、手芸、工作、コーヒータン等を取り入れ、楽しみ事、気分転換や充実した生活が送れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご利用者の希望に応じて、買い物や近くの畑の草取りや収穫と一緒に掛けたり、地域行事や季節に合わせた外出もしている。家族との外出、外泊も出来るよう柔軟に対応している。 (外部評価) 中庭などがあるゆったりとした敷地は、ついつい外に出なくなり、散歩には最適な近隣風景で、外出が多い要因となっている。利用者の希望に応じて買い物などに出かけたり、いつでもドライブに出かけられるよう支援している。年間の行事計画や季節に応じて、花見や温泉などに出かけている。家族と外出することを推奨しており、利用者同士の関係性の維持にも外出支援は役立っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者やご家族の希望をお聞きし、認知症の状態により金銭を所持できる環境である。お金を持つ大切さを職員が理解した上で個別に支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやりとりは自由に出来るよう支援しており、家族等からの電話を取り次いだり、ご利用者の誕生日や何かの記念日にご家族よりお花やプレゼントを送っていただいた時には、お礼の電話をしていただくよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 掲示板に利用者の作品を季節感、生活感を出しながら掲示している。玄関を入るとトイレが一番に目に入る為、ご利用者、面会者が不快にならないようにカーテンをつけ見えないよう、常に清潔を保てるような環境になるよう配慮している。 (外部評価) ゆったりとしたリビングが各居室の中心に位置し、利用者が自然と集まるスペースとなっている。高い天井の近くには大きな窓があり、たっぷりの自然光が差し込み気持ち良く感じる。また、吹抜けの窓から換気された空気が流れ込み爽やかで、利用者が気持ち良く過ごせるよう配慮している。また、共用空間ではリハビリや体操も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自分の場所として、テーブルの席を一人一人決めている。一人になりたい時や、面会などの際には居室に自由に行き来出来るよう思い思いに過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 行事の写真や作品を居室に飾り、ご利用者が好みで使いやすいうに、レイアウトしている方もおられ、落ち着く空間づくりに努めている。また、家族が持って来られたお孫さんの写真も飾ったりと、いつでも見れるよう、居心地よく過ごせるようにしている。 (外部評価) 居室はベッドやクローゼット、洗面台などが利用者の状態に合わせて配置されており、使い慣れた家具などを持ち込み、個性豊かな部屋となっている。利用者が一人になれる空間でもある居室では落ち着いて過ごせるよう、職員は邪魔しないような配慮をして支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ドアにご利用者の名前や花の写真を表示して、わかりやすくしている。食事の時の席も固定化しており、自分の場所を確立し認知症によるトラブルの軽減に努めている。ユニット内の掲示板には、その日の担当者を決めて、出来る事は一緒に行っていただいています。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873100154
法人名	有限会社 弘祐会
事業所名	グループホームこうゆう庵
所在地	愛媛県西条市丹原町寺尾甲31番地9
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由に地域の中で…」を理念に挙げているように施設と地域との交流を大切に力を入れている。毎年実施している「夕涼み会」は、はや10年がたち定着し、200名以上の来客がきて参加してくださっており、婦人会のボランティアのお手伝いもしていただき、毎年、施行を凝らし地域の方々とすてきな交流の場になるようにしている。地域の公民館だよりには、婦人会の活動行事として掲載もしてくださっている。また秋の「地方祭」には近隣、隣地区(ご利用者様のご家族)の地域のお神輿やだんじりが時間帯を合わせて集結し訪問にきてくださいます。ご利用者様と一緒に、日頃の感謝を表す場となっております。春の地域の運動会は地域の区長よりテントを立てる場所を提供していただき、ご利用者様の体調を伺いながら参加させていただいて入ります。文化祭には、ご利用者様の1年間の作品作りの発表が出来る場を提供して下さり、地域とつながりながら暮らしていけるよう交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道沿いに北欧風の建物が人を招き入れるように事業所は立っており、入口から中庭に入ると左右に玄関がある。吹抜けのあるゆったりとした共用スペースを中心に各居室があり、高い位置にある窓から自然光が建物の隅々まで行き届いている。ケアも住環境と同様に、利用者が生活をゆっくり楽しむことを大切にしている。管理者が「新しい」という文字にこだわって考えた「新しい我が家」という基本理念は、利用者の「新しい」生活がここで始まり、家族等の協力が重要であること、「新しい」生活基盤であることを考え作成している。高齢期に「新しい我が家」が始まるポジティブな思考を持つことは、利用者の生活に張りを持たせる良い取組みと言える。管理者は継続は力なりと考え10年前から事業所を運営しており、その間に試練も多くあったようであるが、高齢期にも前向きにという事業所の取組みは、利用者に明るい生活の場を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームこうゆう庵

(ユニット名) ユニットⅡ

記入者(管理者)

氏 名 天崎るみ

評価完了日 平成 25 年 11 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「自由に地域の中で」を理念に揚げ、地域の方と接する機会を大切にし、ことあるごとにカンファレンスを行い話し合いの場を持ち、理念の意義を意識するように心がけ、話し合いを行い、提供できるよう都度確認し、同じ方向にむけられるよう、共有（和）を計れるよう、日々実践につなげていくよう心掛け努めている。 (外部評価) 「新しい我が家」から始まる基本理念は、事業所での生活は家族等と切り離して考えるのではなく、利用者の新しい生活を家族等と共に職員がサポートして行くという思いを込めて作成している。管理者は職員に絶えず「家族と共に」という言葉を投げかけながら、利用者同士や家族、職員が一緒となって新しい我が家づくりに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の一員として、地域の行事や小中学校の運動会（施設専用でテントを建てる場所を設けていただいている）お祭り、文化祭（ご利用者の作品展示）盆踊り大会、児童生徒を守り育てる会、震災訓練など、地域行事に積極的に参加し、施設での行事にもご利用者の生活に組み入れ、交流に努めている。 (外部評価) 開設して10年が経過し、積極的に地域の行事や防災訓練などに参加したり、夕涼み会などの事業所の行事にも多くの地域住民に参加してもらいながら、地域に事業所の居場所を創り上げている。管理者は事業所に隣接した建物に居住して、利用者と一緒に「ここに住んでいる」ことを近隣住民に周知し、地域に溶け込みながら積極的に交流を持つよう取り組んできたことも大きい。自然な形で地域交流には、長い年月が感じられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人々との交流の中で、施設での役割、「認知症の方の施設」であるという認識を伝えていくと共に、施設の利用、又開放などを行っている。地域の清掃活動にもご利用者と参加している。	

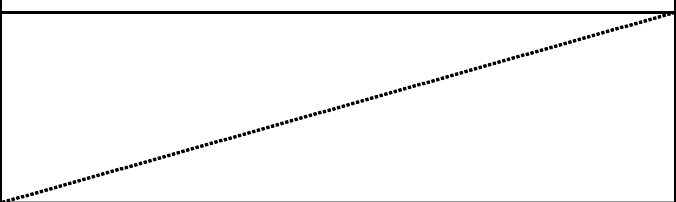
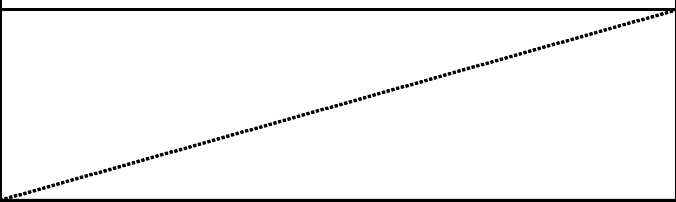
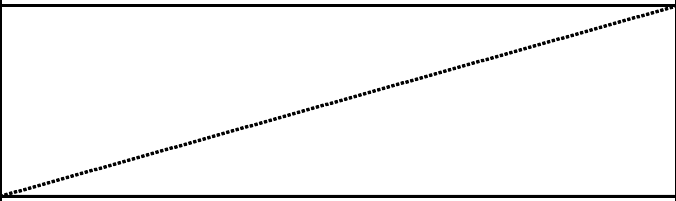
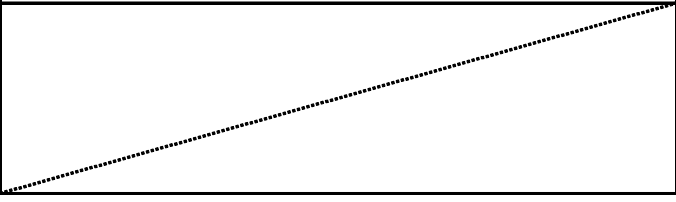
自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に開催し、その都度テーマを設定行い、利用者のご 家族、地域の区長（自主防災組織のメンバー）・民生児童 委員・消防団・婦人会・公民館長・主事・近隣住民のメン バーと話し合いを行っている。行事の計画・反省なども行 い、避難訓練・救急法などにも参加していただいたりと、 地域の協力や体制にもなっている。 (外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、区長、婦人会長、民生委 員、住職、地域包括支援センター職員等の多くの参加を得 て開催している。会議では、事業所の報告などを行い参加 者と意見交換をするほか、講話や誕生日会などを一緒に開 催する工夫をしている。管理者は常にテーマの中心を利用 者と考え、参加者に利用者の理解を深めてもらおうと共に、 参加しやすいよう取り組んでいる。会議は、事業所や参加 者に有意義な時間となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) ご利用者やご家族等に関わる問題などを中心に市町村担当 者に相談し、助言を頂いたり面談などにも立ちあい協力関 係を築いている。又、月に一度、介護相談員の方が来られ ご利用者の状態をお伝えさせて頂いたり、アドバイスを頂 いたりしている。 (外部評価) 市内にあるグループホームの数は、市担当者が運営内容ま で把握できる理想的な数である。市担当者は運営推進会議 に参加しており、運営のキャリアと実績からも良い協力関 係を築いている。また、デイサービスセンターや居宅支援 事業所等、高齢者福祉事業など地域の福祉拠点としての信 頼も厚く、行政だけでなく福祉関係機関とも堅固な連携を 図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する禁止事項などを具体的に挙げることに より、ミーティングなどで事例を通して情報を共有し、夜間 の玄関の施錠についても取り決めを行いながら統一した対 応に努めている。 (外部評価) 「帰宅願望の出た利用者には職員が付き合うんです」と苦 笑している管理者は、身体拘束は絶対にしたくないという 決意を持って支援している。この確固たる信念は利用者 にも浸透しており、安心している利用者の笑顔からも伺 うことができる。職員は、ミーティングで利用者一人ひと りの心の調子を確認し合い、徹底して見守るケアを実践 している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内はもちろんご利用者についての虐待が見過ごされることがないように、私たちスタッフも一言言葉遣いにも配慮し、ご利用者を尊重したケアに努め虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 具体的に擁護に関する勉強会等は実施できていないが、パンフレットなどを用意し、ご利用者やご家族から相談があった場合は専門機関につなげられるような体制をとっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前の事前面接からの説明を始め入所時には管理者・計画作成担当者・ユニットリーダーから直接契約について説明し、疑問点などを再度お聞きするなどして契約書に署名捺印をいただいている。契約後も面会時などにお声をかけるなどの配慮もおこなっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時などにご家族にご意見をお聞きし、必要な場合は会議などで介護職員にも報告し情報の共有に努めている。ご利用者に関しては介護計画作成時にご要望をお聞きし、介護計画に反映させている。	
			(外部評価) 家族等と一緒に利用者の生活を支えるケアを実践するため、職員は家族等に面会時に積極的に話しかけ、利用者の近況を報告するなど、密にコミュニケーションを図るよう努めている。職員は家族が話しやすいよう話題づくりに工夫し、要望や意見、時折愚痴等を聞くようにしている。出された意見は事業所として真摯に受け止め、必要に応じて会議等で報告し、職員間で共有している。また、利用者から出されて意見は介護計画等に反映して支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は、会議・申し送り・ミーティングにも参加しており、日常的に職員と話す機会を作り、意見を聞く機会を持っている。職員とのコミュニケーションを大切にし、介護の質を高めるよう務めている。 (外部評価) 管理者は日々の申し送り等に参加しているため、職員は意見を伝えやすい環境にある。管理室が各ユニットの上の階にあり、管理者は1日数回利用者の状態を確認し、職員が気づきにくい利用者の変化にも対応している。事業所では管理者と職員の視点で利用者の体調などを確認するようにしており、日頃から報告や連絡、相談など忌憚なく話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者は職員の個々の生活状況を理解し、生活状況をふまえ、労働時間、給与など各自が続けて働けるよう配慮してくれている。資格取得には、協力していただき、給与についても配慮していただいている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者は職員一人ひとりのケアの実力と力量を把握し、個人の資格取得状況も合わせながら、研修案内・研修情報の回覧・表示し研修の調整を図っている。言い出しにくい職員には、参加の声掛けをし務めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 居宅事業所のケアマネージャーを中心に視察・見学等を行ない又、研修などで同業者との関わりを積極的に持つことで新たなネットワーク作りや勉強会・研修会の情報交換などを行いネットワークづくりなどを行なっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用者には必ず面接を行ない、本人の希望や不安な点をお聞きし説明を丁寧に行うよう心がけている。日々の生活で些細な点も記録に残し、サービス利用後のケアに役立てている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前に必ず面接を行ない、ご家族の希望や不安な事をお聞きして、丁寧に説明を行うように心掛けています。面会に来ていただいた時にも、管理者よりお声をかけさせていただき、定期的にご家族の希望や、ご意見をお聞きしています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込み段階での情報収集を密に行い、担当のケアマネジャーとも情報交換をすることで、ご本人・ご家族だけでなくいろいろなサービス全体からご利用について検討している。医療機関の協力も必要な場合もあり診断書や紹介状の手配なども助言させていただいている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で家事活動を中心に、生活の知恵を出していただいたり、季節の行事等を教えていただいたり、それぞれ役割を持っていただくことで、職員との一方的な関係ではなく「和を共有する同士」の関係を築かれている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に病院受診、外出、行事参加などの協力をお願いし、施設にすべてを依存せず、施設とご家族が協力してご利用者に一番良い環境作りを心がけて、ご利用者とご家族の関係を断ち切らないよう配慮しています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 在宅生活の延長で、地元の馴染みの人との交流、敬老会などの行事への参加や遠方からの面会者などには食事を一緒にしていただく。また、遠方から帰られたご家族と一緒に外泊をされたりと、馴染みの関係が途切れないよう支援している。 (外部評価) 住み慣れた自宅周辺での馴染みの関係を大切にして、敬老会など地元の行事に参加したり、馴染みの美容院へ出かけられるよう支援している。長期の利用者も多く、利用者同士や職員、近隣住民と新たな馴染みの関係ができています。また、知人や友人の訪問など、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が仲介となり、交流の機会を設け、いろいろな会話の中から、子供の頃の話や終戦時など井戸端会議のような形式を取り、会話は楽しいものだと言った皆様が感じ、「共に暮す」暮らしを意識しながら自然に関わり、協力しあえるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、行事等などの案内パンフレットを送付してお誘いしたり、関係機関の担当ケアマネージャーを通じ情報をお聞きするなど経過の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の介護記録には、その日、ご本人が発言した言葉をそのまま記入し、それに対し職員がどう返答し、ご利用者がどう納得されたかなど、何気ない日常会話の中の心の変化や、体の変化をつかむ材料としている。 (外部評価) 利用者理解をケアの重要ポイントとして位置付け、利用者一人ひとりの生活歴を整理している。利用者が「わがまま言い始めてくれると安心した証拠」と、ドンと構えている職員は、丁寧な利用者の思いや意向の聞き取りが期待できる。わがままの中に利用者の思いや意向を聞き取ろうとしている姿勢は、利用者本位のサービスが提供できていると証拠である。新たに知り得た内容は記録して、職員間で共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面接や入所後のアセスメントを行い、ご本人やご家族の面談や日常会話での情報収集、ご家族にはアンケート用紙を渡しアセスメント用紙をまとめ、サービス利用に活用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日課表や個人記録を詳しく記入することにより、毎日の現状を把握できるよう努めている。口頭で申し送りを行い、日誌の申し送り欄に特記している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員がご利用者の状態や変化に気づいた点などがあればメモ帳にひかえて毎月、月初めに各ユニットでケアカンファレンスを行い、話し合いで意見やアイデアを出し合う場を設けている。ご家族には面会に来られた時に面談などを行っている。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、利用者の状態の変化や気づいたことを職員間で話し合い、介護計画を作成している。モニタリングは、3年ぐらい前に行政指導で様式に評価を加える見直しを行った。評価をして次の介護計画の作成に活かすことで、より具体的なアセスメントにつながっている。分かりやすく利用者に合わせた介護計画になっており、職員の専門性の向上にもつながっている。	 モニタリングの評価の様式をもっと具体的に作る時期に来ていると思われ、「できている、できていない」だけではなく、「なぜ、できていないのか」という分析や「他のやり方」という手法の変更など、言葉で明記することを期待したい。また、明文化することは問題を明確にし、新たな利用者像の発見や気づきにもつながる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ご利用者が1日1日されたことをただ単に記録するのではなく、日常の言葉や会話なども含めながら「気づき」を記録しよう心がけている。出勤以外の日の記録にも目を通し、情報を共有し、その都度話し合いそれをよりよい介護につなげる努力をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 新しい情報を取り入れながら柔軟な支援サービスの多機能化「買い物、外出、受診介助」等に取り組み、その時々生まれるニーズに対応できるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方々の協力をいただき、「夕涼み会、避難訓練、地域の文化祭」などに参加していただき、グループホームを知らない方にも理解していただく機会を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医との連携を行い、ご本人・ご家族の希望も取 り入れ、ご家族にも協力していただきながら、ご本人がよ りよい医療を継続して受けられる様に支援している。必要 時には、施設からの情報提供や薬の受け取り、受診協力も 柔軟に対応している。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て受診 することができる。管理者は、利用者の見守りを徹底する には職員の受診介助が良いと考えているが、家族と一緒に ケアを行うことを基本としているため、効率より家族との 絆を大切にしている。また、各ユニット毎に看護師が配属 され、利用者の健康管理や医療的な見守りも専門的に行っ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員と日々の気づきや申し送りを細かく看護師と相談 し、医療機関へつなげるきっかけとなっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご利用者の入院の際には、ご利用者の状態やご家族の状態 を伝え、情報提供書をお渡ししている。日々の受診の際に も病院関係者との情報交換など行い関係作りに努めてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご利用者の状況を見ながら重度化した場合などの対応につ いてご家族との相談できる体制を作っている。ご家族の希 望を中心に、施設でのケアの限界と医療体制なども十分説 明し、職員も方針を共有しながらチームとしての思いをひ とつにし、安心して取り組める様話し合い支援が出来るよ うにしている。 (外部評価) 「口から食事（栄養）が摂れる間はお世話をさせてもら う」と事業所の役割を規定し、利用者や家族に説明して支 援している。対応できる範囲を明確にすることは、事業所 の専門性の高さが伺える。看取り支援の経験があるため、 その経緯を確認すると、「当日まで口から食事を摂ってい た」と言われることから、福祉職の職業倫理を高く持って いる事業所であることが分かる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを整備し、消防署の指導のもと、勉強会などを行い日々訓練している。今後も専門的な講習を受けるなどして、知識・実践力を身につけていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回6月・11月に日勤、夜勤帯想定で防火訓練を実施している。地域の近隣の方にも参加していただき、地域との協力体制を確認している。運営推進会議などでも対策について課題にあげて話し合っている。また地域での震災訓練にも参加させていただいている。 (外部評価) 避難訓練などの災害対策は回数を重ねており、地域住民との連携もしっかり取れている。事業所は平屋で、避難経路は複数あるが、火災等の人災は起こすべきではないとの思いから、訓練の度に避難経路を変えるなど、職員の防災意識の高さが伺える。つついルーチン化しがちな訓練であるが、職員が利用者の命を守ることの使命を再認識する機会としており、真摯に取り組んでいることが分かる。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないように「言葉づかい」に気をつけ、コミュニケーションをとっている。プライバシーに関してもことあるごとに検討している。 (外部評価) 職員は、各々の年齢から利用者との関係性を推察し、子どもや孫、友人など、その位置にあった会話をしている。職員は利用者の地元のイントネーションで声かけをしており、利用者には安心感がある。声かけを積極的に行う必要のある利用者や、職員が聞き役に徹して傾聴した方が良い利用者など、利用者一人ひとりの状態に配慮した関わりができており、心地よく感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者に事前に声をかけ、ご希望をお聞きしたり、体調面に配慮したりし、自己決定を尊重している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調や生活リズムを大切にしながらも、ご利用者のペースに合わせ、声かけし、したいことがあれば取り入れ、認知症などで自己決定が難しい場合は職員の方で提案するなどし、日々ゆったりと過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 清潔感を持たれ、その人その人に応じたおしゃれができるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者の能力に合わせ、負担にならないよう配慮しながら食事の準備や片付け、台拭きなど、職員と一緒に手伝っていただき、お手伝いしていただいている。また、食事の好みを聞き、献立を一緒に考え、会話を楽しみながら食事をしている。 (外部評価) 近隣住民が「みんなで食べて」と食材を持ってきてくれている。管理者は、近隣住民に「いつも良くしてもらっています」と言われ、毎日のようにお裾分けが食卓に並び、食事に彩りを添えている。調理した職員に利用者が「おいしい」と声をかけている食事の様子は、利用者が「我が家」の食卓を囲み食事をしているように感じる。また、利用者は職員と一緒に台拭きなどできることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は一日を通じてバランスよく取れているか食事摂取量、水分摂取量は必ず記録に残し、水分量は午前、午後、食事中、入浴後などできるだけ多く摂取できるよう配慮している。また、毎身体重測定を行い病気予防に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 職員が見守りしながら、毎食後、フロアの洗面所にて口腔ケアを実施している。きれいに磨けているかどうか、声かけしながら見守り、清潔を保っている。義歯は、必ず夜間ポリドントにつけ洗浄している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄は個人個人の精神面を配慮し、いつもトイレでの排泄を心がけて援助している。失敗した時には、自尊心を傷つけないよう声をかけや対応を心がけて安心感を持てるよう支援している。 (外部評価) 職員は、利用者がトイレで排泄できるよう心がけて支援している。利用者の身体状態に合わせて、一人ひとりの排泄パターンに配慮した声かけをし、トイレへの誘導等をしている。各トイレの手すりは、少しずつ取り付け位置が異なり、利用者に配慮してトイレを使用しやすい位置に取り付けられ使い分けている。開設後10年が経過しているが、トイレには生活臭もなく爽やかな空間となっている。トイレの綺麗さは、介護の良さと比例している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事は野菜類や水分を十分に摂取していただけるよう心がけている。体操・歩行訓練を毎朝行っている。排便の確認がとりにくい面があり時間的に長いときには、ご本人にその都度確認してる。ご本人の申告もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご利用者に相談しながら、入浴している。世間話などしたり体調面などが理解できるようなんびりゆったりし、楽しみなひとときになるよう配慮している。 (外部評価) 管理者は、利用者のどんな身体状態でもできる限り湯船に浸かってほしいと考えて支援しており、職員が2人体制でも介助がしやすい浴室となっている。利用者は毎日入浴をすることができ、ゆっくりと気持ち良く入浴できるよう支援している。入浴時は職員と利用者が1対1となり、利用者理解の時間と位置付け、利用者は楽しい時間を過ごしている。今後は、利用者が安心安全に入浴できるようリフトの導入も考えており、入浴支援には余念がない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご利用者のリズムにあわせ各自自由に、安心、安眠・休息が出来る環境作りに努力している。安眠+信頼がつかわれるように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 病院から頂いている処方箋は必ずファイリングし、個人カルテには誰が見てもわかるように細かく記入し、投薬変更や投薬追加がある時は必ず申し送りしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴、能力に応じて負担にならないように家事などの役割を担って頂いている。テレビ・音楽鑑賞・作画・コーヒータimeを取り入れ気分転換や充実した生活が送れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご利用者一人一人の希望に応じて買い物や近くの畑へ草取りや、収穫に一緒に出かけたり、地域行事や季節に合わせた外出も行っている。ご家族との外出・外泊も出来るよう柔軟に対応している。 (外部評価) 中庭などがあるゆったりとした敷地は、つつい外に出たくなり、散歩には最適な近隣風景で、外出が多い要因となっている。利用者の希望に応じて買い物などに出かけたり、いつでもドライブに出かけられるよう支援している。年間の行事計画や季節に応じて、花見や温泉などに出かけている。家族と外出することを推奨しており、利用者同士の関係性の維持にも外出支援は役立っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者やご家族の希望を聞き認知症の状態により金銭を所持できる環境である。お金を持つことの大切さを職員が理解した上で個別に支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやり取りは、自由に出来るように支援しており、ご家族等からの電話を取り次いだりご利用者の誕生日や何かの記念日にご家族よりお花や衣類を送っていただいた時にはお礼の電話をさせていただくよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関口及び、室内に数ヶ所掲示板を設置し、ご利用者が作った作品、行事の写真等を掲示させて頂いている。玄関を入るとトイレが目に入るため、カーテンを設置させていただき、面会者に不快感を与えないように常に、清潔感を保てるような環境になるよう配慮させていただいている。 (外部評価) ゆったりとしたリビングが各居室の中心に位置し、利用者が自然と集まるスペースとなっている。高い天井の近くには大きな窓があり、たっぷりの自然光が差し込み気持ち良く感じる。また、吹抜けの窓から換気された空気が流れ込み爽やかで、利用者が気持ち良く過ごせるよう配慮している。また、共用空間ではリハビリや体操も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自分の場所として、テーブルの席を一人一人決めている。一人になりたい時や、面会などの時は居室に自由に入出りできる様にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で大切にしていた馴染みのもの、写真や思い出の品などを居室に置き、落ち着く空間づくりに努めている。昔使っていた机などを持ち込まれている方もいる。 (外部評価) 居室はベッドやクローゼット、洗面台などが利用者の状態に合わせて配置されており、使い慣れた家具などを持ち込み、個性豊かな部屋となっている。利用者が一人になれる空間でもある居室では落ち着いて過ごせるよう、職員は邪魔しないような配慮をして支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ご利用者の居室前に名前や花の写真を表示してわかりやすくしている。食事の時の席も固定化しており、自分の場所を確立し、認知症によるトラブルの軽減に努めている。ユニット内の開示版にはその日の担当を決めできることは一緒に行っていただいている。	